

# 式辞

神奈川県に入学された皆さん、また、更なる学問探究を志して神奈川県大学院に入学された皆さん、ご入学おめでとうございます。神奈川県大学の教職員を代表して、心からお祝いと歓迎の意を表します。また、御父母の皆さま、関係者の皆さまにも、心からお慶び申し上げます。新入生の皆さんが、本学で、その能力を伸ばし、人として大きく成長するよう、私たち教職員も全力を尽くしたいと思います。

式典に先立ちご覧になられたように、本学は、創立者の米田吉盛が「人は実業家や学者、官僚である前に、まず人間であれ」と説いて以来、卓越した研究の叡智に基づく教育重視の伝統を堅持して、学問による「人づくり」に努めてまいりました。近年では、「約束します、成長力。一成長支援第一主義」と表現したコンセプトのなかで、「人をつくる」高等教育機関としての誇りと自負を持って、新入生の皆さんを学問へといざなう準備を整えております。

また、本学の永続的な進化に備えて、開学の地に隣接するみなとみらい中央地区に新しいキャンパスを2021年4月に開設いたします。この「みなとみらいキャンパス」には、外国語学部と経営学部を移転するとともに、「国際日本学部」を新設し、5,000名程度の学生が学ぶ高層ビルの都市型・未来型キャンパスとなります。外国語学部と経営学部に入學された皆さんは、3年次からは、新しい「みなとみらいキャンパス」を中心に学ぶこととなります。国際的企業が集約された横浜の最先端地区に新しい「知の拠点」を開設することは、未来社会を先導する高等教育機関としての社会的責任を全うするためのものです。

さて、近年、大学の評価は、第三者機関による世界標準に則して示されるようになってきました。たとえば、昨年秋にイギリスの高等教育情報誌である、タイムズ・ハイヤー・エデュケーションが発表した「T.H.E. 世界大学ランキング」に、本学が世界の上位5%内の大学として掲載されました。これは、本学が世界有数の総合大学の1つとして評価されたことを意味しています。この評価の根底には、本学の研究力と教育力の高さがあります。本学には、未来社会を先導する一流の研究者が集っています。大学の評価は、世界の標準では、入試の偏差値などではなく、社会に貢献できる研究力と教育力にあるのです。

新世紀に入り、私たち人類はますます多元的な価値観と複雑な社会構造のなかで生きていかねばなりません。また、IoT、AI、ロボットをはじめとする科学技術の急速な進化に伴う資本主義社会の変容にも備える必要があります。しかし、資本主義の未来は、実は、誰にも分からない予測不可能な不確実なものです。だからこそ、本学での「学びて問う」なかで、「自ら考える力」と「世界の本質を見極める見識」を培うことが期待されています。

本学での「学問」は、これまでの学習と違い、知識をただ学び取るだけでなく、文字通り「学び」、そして、「問う」、つまり、自ら考えて問うこと、疑問を持つことが求められます。これまで継承されてきた知識を、ただ受け入れるのではなく、その真偽を自らに問いかけ、自らのいわゆる血肉にすることが大切です。

学ぶだけでは、他人の知識を代弁し、他人が築いた権威に安住するだけとなりかねません。また、学ばずに、問うだけでは、世界を知らずして、単なる主観を客観と錯覚して、自己肯定の独善に陥りがちになります。

「学び、そして、問う」ことを真摯に繰り返し、教員と、そして学友との討論などを通して、主観による独善を乗り越えて、冷静に物事の「本質」を見極めることが求められます。大学は、教員と皆さんとによる、学び、そして、問う「共同作業の場」といえるでしょう。

一般に学問とは、積み重ねられてきた知識の中から自らの課題を発見し、その課題を解決するために、地道な調査や研究を行い、一つの仮説を提示、検証し、自らの新しい学説を提示することとされています。

大学では、学者の研究内容に基づいて、さまざまな講義が行われます。研究者である大学教員は、自らの長年にわたる研究課題との奮闘とその成果をもって講義室に向かいます。研究室の学者が、講義室では、教育者として、皆さんが本来持っている学ぶ意欲と知的好奇心をさらに伸ばすことを目指して教壇に立っています。

皆さんは、講義室にて、教員の研究に取り組む姿勢や、人類の幸福に寄与せんとする学者の精神にも触れることもあるでしょう。大学の教員は、遠い学生時代に、先学の学問への情熱とそのひたむきさに心を揺さぶられた経験を持つはずです。

大学の講義室は、連綿と続く人類の叡智の継承の場であるとともに、学問を志し、学ぶものの精神を含めた継承の場でもあるのです。

さらに、本学では、伝統的に「教養教育」に力を入れてまいりました。液状化が進み混迷を極める不確実な資本主義社会に対する新しいビジョンは、教養ある、想像力豊かな人間から生まれるものと思います。

哲学、歴史、文学、芸術等を学ぶことで、自らの血肉にする知見は、専門的学問探究が陥りがちな狭い見や、行き詰まりを超越して、知識の体系化に結びつける力を持つものであり、国連が目指す安定した持続可能な社会システムの実現や「人間中心の資本主義社会」にたどり着くために必要な見識でもあります。

また、自らの専門的知識と能力を、どう使うのか、誰がために、何のために使うのかを方向付けるのが、その人の教養といえます。例えば、高い専門性を持つ弁護士の資格を得たときに、弁護士としての専門知識と能力を、社会に貢献するために使うのか、そうでないのかは、その人の教養に依存します。

さらに、日本のように資源がない国に生きる私たちは、自由で柔軟な発想のもとに、本当に必要とされる「ものやサービス」を生み出していかなければなりません。そのためにも、皆さんなりの「社会のビジョン」を想像・イマジンするなかで、先進的なテクノロジーと融合させることが大切です。

かつて、スティーブ・ジョブズは、iPadのプレゼンテーションで、「われわれは、テクノロジーとリベラルアーツの交差点に立とうとした」と話したことがありました。これも、教養の大切さを表明したものと捉えたいと思います。

ここで、教養科目の1つである「文学」について考えてみましょう。「文学」は、作者が全身全霊を費やして自らの思想を渾身の一大事業として表明したもの、とする考えがあります。多様な歴史的・社会的な設定の中で、人間行動の礎となる思考力と心情や精神の深みが扱われます。時に特異な社会状況や歴史的事象とともに、人間関係のもつれや心の機微、そしてさまざまな精神の動向などを、自らのものとして追体験することになります。

そこでは、インスピレーションを得ることや、孤独な心に響く「希望」を感じることもあるでしょう。一般に、皆さんが直面する複雑な課題には、人間の心情や精神の動向が複雑に絡んでいることが少なくありません。課題の解決のためには、現行の制度や論理の理解とともに、人の気持ちに寄り添うことや、人が共に生きることの意義なども問われます。

このように、「文学」は、多様な追体験を通じた学びに溢れ、皆さんを人として大きく成長させるとともに、現代的な課題の解決のための気づきや糸口を与えてくれるでしょう。あえて言えば、「文学」も「実学」としての側面を持つ学問といえるでしょう。

一般に、学問の目的は、「真理の探求と人類の生存条件の辛さを軽くすることにある」とされています。あらゆる学問は、人類の幸福という公共性にかかれた学問として登場しています。ジョン・ステュアート・ミルも青年時代の勉学は価値がある、すなわち、「人間性を高めるとともに人間社会の新たな問題に対処しうる能力を高める事になる」(『大学教育について』竹内一誠訳、岩波文庫、2011年)と述べています。

さて、ここで、本学の誇りうる教授の一人である故山本新先生をご紹介しますと思います。山本新先生は、「学びて問う」ことに対して、実に真摯に取り組まれ、イギリスの歴史学者アーノルド・トインビー研究の第一人者として、『文明の変動と構造』（創文社、1961年）を著して、比較文明論という新しい学問領域を確立されました。

また、六角橋のキャンパスの本館の前に大きなモニュメント「メビウスの輪の像」が建っていますが、そこには「無限」と書かれてあります。これは、山本新先生が、哲学の西田幾多郎に学んだ京都学派の高山岩男、草薙正夫、信太正三などの神奈川大学に集まった俊英とともに、保守主義と進歩主義の衝突が「無限」に繰り返されるという「無限革命論」の思想を表したものであり、本学創設者米田吉盛の思想の哲学的な意義づけに連なるものでもあります。

神奈川大学の歴史を紐解けば、山本新先生をはじめ、大熊信行、網野善彦など、数々のすぐれた教員を輩出しております。こうした先学に共通していえることは、本質を求め真理に対して「質実剛健・積極進取・中正堅実」に研究と教育を極めんとした点にあります。神奈川大学の研究と教育は、自由にあるべき姿を建学の精神よろしく独立して考えることを旨としております。この点からも神奈川大学は、日本の誇れる大学の一つであるとはっきりと申し上げられます。

本学は、新入生の皆さんが、しっかりと学問に取り組むとともに、新たな友人と出会い、語らい、課外活動等の様々な可能性に挑戦するなかで、人として成長し、皆さんしかできないことを見い出して、社会に船出するための最高の教育と環境を提供してまいります。

最後になりますが、新入生の皆さんが、「人をつくる」大学である神奈川大学の学生としての誇りと自信を持って、健康に心がけて、実りの多い学生生活を過ごされますよう心より祈念して、私からの式辞といたします。

平成31年4月3日  
神奈川大学長 兼子良夫